



# 大会長挨拶



## 第19回近畿薬剤師学術大会

### 大会長 藤垣 哲彦

(一般社団法人 大阪府薬剤師会 会長)

第19回近畿薬剤師学術大会は、「水の都・大阪」で開催させていただきます。

「水の都・大阪」の謂れは、古代、現在の上町台地に位置する難波宮に都が置かれ、ここを拠点として瀬戸内海や各地と交流、さらには大陸からの新しい技術や文化が大阪に持ち込まれ大変栄えたことにあります。江戸時代以降は多くの水路が開削され、橋の多さから「八百八橋」とまで言われるようになりました。

昨年10月、「患者のための薬局ビジョン」が公表されました。薬剤師・薬局の役割が十分に発揮できていないとの指摘を受け、医薬品を中心とした対物業務から患者・地域住民と密なかかわりに重点をおいた対人業務へ移行することが求められています。

このような背景のもとで、テーマを「地域に貢献する薬剤師力!」とし、地域での活動を前面に出すこととしました。地域包括ケアシステムで求められる役割やかかりつけ薬剤師・薬局の機能に加え、健康サポート機能・高度薬学管理機能を併せもつ未来志向の薬局・薬剤師像を提案していきたいと思えます。

分科会では、テーマを「かかりつけ薬剤師と健康サポート薬局」、「クスリの理解を臨床に活かす」、「医療安全と薬剤師業務の実践」に絞り、患者・生活者に寄り添う薬局・薬剤師の機能について活発に議論いただくこととしております。

特別記念講演では、「iPS細胞 網膜再生医療」と題して、理化学研究所の高橋政代プロジェクトリーダーに網膜再生の最前線的话题をご講演いただきます。また、特別講演では「地域包括ケアシステムにおける薬剤師の役割」を医師であり病院長でもある薬局経営者の狭間研至先生に地域の医療現場全体から見た立場で将来の薬剤師・薬局のあるべき姿を描いていただきます。

今大会では、時間的な物足りなさが残る不安もありましたが、初めて1日開催に挑戦いたしました。今まさに地域において医療と介護の連携が必要とされ、地域包括ケアシステムが関係職種を繋ぎ、患者さんに安心・安全をもたらすことにならなければ地域療養の目的は達しません。さらには、病気にならないための予防策や重症化を防止する役割も必要とされています。患者さんや地域住民の生活全体を把握することのできる体制を構築する一員として、薬局・薬剤師が大きく変わることが期待されています。

最後に、水の回廊がめぐる大阪では、リバーサイドのお洒落な賑わい構想により、さらに活性化した「食いだおれのまち」を大会の合間でお楽しみいただくとともに、この大会では薬剤師が地域でより活性化する機会となることを祈念いたしましてご挨拶いたします。